

栗原市



おばさま えんねん

小迫の延年（小迫祭り）は、三迫総鎮守の社として崇敬されている栗原市金成・白山神社の例大祭で、春の農耕期を前に豊作を願って行われてきました。その起源は、建久元年（1190年）に源頼朝が平泉の藤原泰衡を討った帰途、その戦勝の御礼として奉納された「那須与一・扇の的射」の野祭りおうぎ まと いと、平泉藤原時代の延年（僧侶や稚児が寺院で演じた遊演歌舞の総称）とが合わさり、今に伝わる「小迫の延年」になったといわれています。



祭りは、優雅な平安の調べにのって舞われる獅子舞ししまい、献膳けんぜん、御法楽ごほうらく、入振舞いりふりまい、飛作舞ひさまい、勇壮な武者による源平合戦の扇の的射ばしょうわたを模した馬乗渡しでんがくまい、田楽舞からなります。馬乗渡しの扇の的を手に入れた集落は豊作であるといわれ、必死に的の奪い合いが行われてきたため、「けんか祭」、「荒祭」とも呼ばれています。

昭和54年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。祭典は、旧3月3日でしたが、現在は4月第1日曜日に開催されています。